言葉の旅 スペイン語のバリエーション(8)

コロンピア・ベネズエラ

2000 年の夏,上智大学のアントニオ・ルイズさんと私は南米各地を駆け足で回りました。今回取り上げるコロンビア(Colombia)のボゴタ市(Bogotá)とベネズエラ (Venezuela)のカラカス市(Caracas)にもそれぞれ4日ずつ滞在しました。研究所や大学のスタッフと語彙バリエーション研究の打ち合わせをし,残りの時間は町中を観察するというパターンです。



【写真1】ボゴタ市の街角

ボゴタ市には市内と郊外に「カロ・イ・クエルボ研究所」(Instituto Caro y Cuervo)というスペイン語研究の拠点があります。ここの所員たちの研究活動に接し、私たちの調査結果を発表する機会もありました。アンデス山脈北部の谷間にある市の気候は真夏でも過ごしやすく、現地で生活している日本の留学生もとても快適だと言っていました。



【写真2】parqueadero 駐車場

ボゴタから飛行機で3時間ほどでカリブ海岸のカラカスのシモン・ボリバル空港に到着します。市内は高地にあるのでここもそれほど暑く感じません。緑の多い谷間の大都市の中を立体ハイウェイが縦横に走っています。言語研究の盛んなベネズエラ中央大学(Universidad Central de Venezuela)で情報交換をした後は町のあちこちを観察しました。ルイズさんが手帳にメモをとり、私が現物の写真をとります。あらかじめ案内役のアルバイトを頼んでおいたので、短期間に多くの材料を能率的に集めることができました。



【写真3】カラカス市街

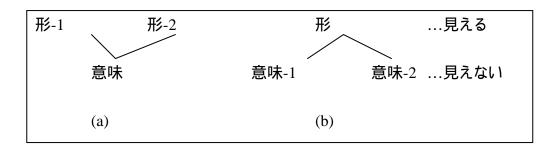


【写真4】カラカス市の遠景

「一休みにコーヒーでも」というとき、ボゴタでもカラカスでも、¿Le provoca café? 「コーヒーはいかがですか?」と言われます。apetecer の代わりに provocar が使われます。隣接する2国では、たとえば parqueadero「駐車場」や bomba「ガソリンスタンド」など共通する言葉もありますが、それでも交通標識や町の掲示などが異なることもあります。自動車の「車線」はボゴタでは carril と言いますが、カラカスでは canal と書かれてありました。

形と意味・シンタックス

先にあげた apetecer と provocar というように,同じ意味でも各地で形が異なる場合はすぐに目につくのでわかりやすいのですが(下図の a),逆に同じ形で意味が異なるとうっかり見過ごしてしまうことがあります(下図の b)。



アメリカ大陸のスペイン語をスペインのスペイン語と比較しながら各国の辞典 (Diccionario de Americanismos)を編集しているドイツ・アウクスブルク大学のギュンター・ヘンシュ(Günther Haensch)さんは次の例を挙げています("El español de Colombia", *Hispanorama*, 52)。

語形	スペインでの意味	コロンビアでの意味
bravo	勇敢な	怒っている
comida	昼食	夕食
mono, mona	かわいらしい	金髪の
primer piso	2階(地上の1つ上の階)	1階(地上と同じ階)
tienda	(一般に)店	(小さな)食料品店

次はヘンシュさんの結論です。

Si bien se puede decir que los hechos morfosintácticos, la pronunciación y entonación del español de Colombia apenas dificultan la comprensión entre colombianos y españoles, el léxico del español de Colombia, incluso el de la vida diaria, presenta tantas diferencias que puede haber casos de incomprensión o malentendidos, especialmente cuando a un significante (usual en España y Colombia) corresponden diferentes significados. 「コロンビ

アのスペイン語の形態統語的(文法的)事実と発音やイントネーションはコロンビア人とスペイン人の間の相互理解を困難にすることはほとんどないが、コロンビアのスペイン語の語彙は日常生活にかんするものでも多くの違いがあり、とくに(スペインとコロンビアでふつうに使われている)同じ形が異なる意味をもつときにそれが理解を困難にしたり誤解を生んだりすることがある。」

ベネズエラでは興味深い文法上の現象に出会いました。シンタックス(統語論)は語の並び方とその意味を扱う研究分野ですが、その重要なテーマとしてしばしば次のような各種の「分裂文」(oraciones hendidas)が取り上げられます。

- (a) Fue un libro lo que compró Juan.
- (b) Un libro fue lo que compró Juan.
- (c) Lo que comró Juan fue un libro.

どれも, Juan compró un libro「フアンは本を買いました」という文の前半部分(Juan compró)と後半部分(un libro)が分裂して, un libro を強調しています(「フアンが買ったのは本です」)。ところがカラカス市の口語には次のような珍しい第 4 種が頻繁に現れるのです。

(d) Juan compró fue un libro.

私たちがふつうに学んでいるスペイン語では、このような文型は扱われません。先生からも文法的でない、と言われるでしょう。ベネズエラ中央大学のメルセデス・セダノ(Mercedes Sedano)さんは、次の実例を挙げてその頻度を分析しました(*Hendidas y otras construcciones con SER en el habla de Caracas*, Universidad Central de Venezuela, 1990)。

- Me gusta la música es moderna. (私が好きな音楽は現代音楽です)
- Me gustaba más que todo era el estilo libre. (私が何よりも好きなのは自由型です)
- Él está es puro jugando todo el día. (彼がしているのは一日中遊んでいることです)
- Se oye eso es poco. (それが聞こえるのは少しだけです)
- Yo les propondría es que hagan un pacto. (私が彼らに提案したいのは協定を結ぶことです)

この分裂文は南米北部に分布しているという部分的な報告もありますが、スペイ

ン語圏全体でどのように広がっているかを一斉に調べることが必要でしょう。私たちの研究グループは今年このような文法的バリエーション(variación sintáctica)をテーマにアンケート調査をする予定です。

言葉の広がり...「ガソリンスタンド」

今回の旅で「ガソリンスタンド」はコロンビアとベネズエラでは bomba ということがわかりました。bomba はカリブ海地域(キューバ,ドミニカ共和国,コスタリカ,パナマ),エクアドル,チリ,アルゼンチンでも使われます(地図では B)。しかし,スペイン語圏でいちばん多く使われるのは gasolinera (G)で,スペイン,カリブ海諸国,メキシコ,中米,アンデス諸国(エクアドル,ペルー,ボリビア,チリ)という広い範囲に分布しています。英語の service station「給油所・サービスステーション」に由来するestación de servicio (E)はスペイン,ベネズエラ,南米の南部(チリ,パラグアイ,ウルグアイ,アルゼンチン)で使われます。他にもチリの bencinera (BC)とペルーのgrifo (GR)があります。



【地図】「ガソリンスタンド」

【課題-8a】Lipski (1996)を読み,先に取り上げた「分裂文」の地理的分布を確認しなさい。英文法で扱われる cleft sentence の統語的特徴と比較しなさい。

【課題-8b】Lipski (1996: 239, 384)には,次のような「前置詞+主語代名詞+不定名詞」の構造が挙げられている。各種の資料やインターネットによってその歴史的・地理的分布を調べなさい。

- antes de yo salir de mi pai/s (239).
- antes de yo venir a Caracas (384).

【課題 8c】「ガソリンスタンド」を意味するスペイン語の語形の地域的語彙バリエーションについて調べなさい。

*参考: Varilex: http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex/

^{*}参考: Corpus del Español: http://www.corpusdelespanol.org/, Google など